

用語

日本語：マイクロプラスチック 英語：Microplastics pollution

【定義】環境中に存在する微小なプラスチック粒子であり、直径 5 mm以下のプラスチック粒子または、プラスチック断片のこと。

【説明】海洋環境においてプラスチックゴミは全ゴミの約7割を占める。そのうち直径 5 mm以下のマイクロプラスチックは、サイズが小さいために海洋環境のみならず食物連鎖で多様な魚介類の体内からも検出されている。海に漂っているマイクロプラスチックは化学物質の吸着媒となることも確認されており、その表面に吸着したポリ塩化ビフェニル(PCB)など残留性有機汚染物質が高濃度で検出されるなど、深刻な複合汚染問題となっていることも指摘されている。海洋環境でのマイクロプラスチックは大別して、化粧品や工業用研磨材などに使用されている小さなビーズ状のプラスチックを指す「一次マイクロプラスチック (Primary microplastics)」と、プラスチック製品が環境中に流出された後、紫外線などの外的要因により段階的に劣化・崩壊し、最終的に5 mm以下の細片状になったものを「二次マイクロプラスチック (Secondary microplastics)」に分類されている。海洋環境でのマイクロプラスチックの多くは室内に存在しているが、室内環境での調査研究は非常に限定的である。特に、日本国内での室内空間を対象にしたマイクロプラスチックの調査は行われておらず、我々の研究グループが初めての実態調査に取り組んでいる。居住環境において床に堆積したハウスダストを対象に実態調査を行った結果、調査対象の全住宅の室内からマイクロプラスチックが検出された。居住環境のマイクロプラスチックは海洋環境とは異なる形で複合汚染の媒体になっている可能性が考えられる。

【解説者】イム ウンス 所属：東洋大学 理工学部建築学科